

## 馬ヘルペスウイルス 5 型が検出された当歳馬の馬多結節性肺線維症

日高家畜保健衛生所 ○武智茉里 藤本彩子 藤井誠一ほか

【はじめに】馬多結節性肺線維症（EMP F）は、結節性線維化病変を特徴とする間質性肺炎で、馬ヘルペスウイルス 5 型（EHV-5）感染との関連が示唆されている。EHV-5 は健常馬からも高率に検出され、EMP F の発生機序は明らかになっていない。EMP F は、2007 年に提唱されて以降、欧米、オセアニア、南米及び日本で散発的に報告されている。高齢馬での発生が多く、2 歳前後の若い馬での発生は数例であるが、当歳馬での報告はない。今回、12 日齢で死亡した当歳馬を EMP F と診断したので概要を報告する。また、回顧的調査として間質性肺炎と診断した当歳馬における EHV-5 の関与を検証した。

【発生概要】令和 2 年 5 月、7 日齢の当歳馬（サラブレッド種、雌）が 39.0℃ の発熱及び元気消失を呈した。担当獣医師が抗菌薬及び抗炎症薬による治療を行うが、状態が改善せず、12 日齢で死亡したため、当所で病性鑑定を実施した。

【病性鑑定成績】剖検では、肺は全葉で退縮不全を呈し、多発性から融合性、直径 5 mm 未満の白色の結節性病変が認められた。病理組織検査では、肺に多巢性から融合性、びまん性に広がる病変がみられ、II 型肺胞上皮細胞の過形成、肺胞内への好中球及びマクロファージの浸潤、間質の炎症性細胞浸潤及び水腫を伴う肥厚、硝子膜の形成、肺水腫及び出血が認められた。また、肺胞内に浸潤するマクロファージには、稀にハローを有する好酸性核内封入体が見られ、アザン染色では、間質に軽度の線維化が認められた。PCR では、肺から EHV-5 遺伝子が検出された。*in situ* hybridization（ISH）では、肺胞内に浸潤するマクロファージに EHV-5 特異的 mRNA が検出された。

【回顧的調査】過去 6 年間に当所の病性鑑定で間質性肺炎と診断した当歳馬 23 症例について、肺乳剤（3 症例）及びパラフィン包埋切片（20 症例）を用いて、PCR 及び ISH を実施した。全症例で EHV-5 遺伝子は検出されなかった。

【考察及びまとめ】本症例の剖検及び組織所見は、EMP F の特徴と一致しており、PCR 及び ISH で肺の病変部に EHV-5 遺伝子が検出されたことから、EMP F と診断した。EMP F の既報と比較すると、病理組織検査において、肺間質の線維化は軽度であり、硝子膜形成及び肺水腫といったびまん性肺胞傷害の滲出期における所見が認められたことから、本症例は、EMP F の初期病変を呈していたことが考えられた。本症例は、当歳馬を EMP F と診断した初の症例であり、成馬でのみ報告されていた EMP F が、2 週齢未満の当歳馬で発生することが明らかとなった。回顧的調査を実施した 23 症例では、EHV-5 感染は認められなかったが、今後も EMP F を疑う症例で病理学及び病原学的検査を実施し、当歳馬における EMP F の実態解明を進めていきたい。